

支える会通信

2・29 JAL本社包囲大行動に
600名を超える人々が結集！

昼過ぎからの雨は止んだものの寒風吹きすさぶJAL本社前。18時半からの行動というのに18時から続々と支援者がかけつけました。最初に松平さんのトランペットが鳴り響きました。

国民支援共闘共同代表の全国港湾系谷委員長が「JALの利用者として航空の安全の為にベテランの解雇者を戻すことをJALにお願いしたい。JALを大きくしたいのなら強制的に解雇した者を職場に戻して活用すべき。全社一丸となるには、大きな傷となっている解雇問題を解決するしかない。」と主催者挨拶。

次に品川労協芝山事務局長は「人員不足、経験者不足で育成が進まないJALには安心して乗れない。このままでは国民は離れていく。中味のあ

発行責任者
 柚木康子
 大田区羽田
 4-10-4
 石井ビル3階
 TEL03(6423)7878
 FAX03(6423)7430
 メール
 sasaerukai@
 lemon.plala.
 or.jp

る解決交渉が開始されるよう運動を強めていく」。

JAL中部共闘青柳議長は「この争議は会社破綻のつけを165名に押し付けたものだ。不当労働行為を行うような航空会社を都の職員の出張に使うべきではないと都に申し入れることを検討している。JALの闘いは労働者全体の課題として位置づけこれからも全力で闘う」と連帯挨拶を行いました。

次にパイロット組合の田一見委員長が「パイロットは乗務の制限時間がぎりぎりになり、新規採用も開始されている。しかし、人員不足だからではなく、これは仲間を職場に戻す闘いだ。全力を尽くし、共に闘う」。キャビンクルーユニオンの前田副委員長は「4月から半数以上が新人となる。安全を確保するため皆必死で働いている。2020年のビジネスチャンス

を逃したくないなら解雇した経験者を一日も早く空にもどすべき」と報告。

最後に内田団長から「CCUが分裂させられてから40年。政財界の方針と闘い続けてきたので、争議団は会社が最も辞めてほしい人間だ。争議団は支援者、労働組合と連帯して今まで頑張ってきた。ILOもNever give up」と言っている。一日も早く解決するように頑張る」。

山口団長から「エンジントラブルが続いているが会社は緊急事態と思っていない。そういう人達に運航資格はない。稲盛経営は破綻している。JALは高収益の確立を目標としているが、まず安全運航をめざすべきだ。いつか来た道に戻ろうとしていることに非常に危機感を感じる。安全第一とするためにも解雇撤回に尽力したい」と決意を述べました。最後に抗議のシュプレヒコールを力強く行いました。

ILO勧告の履行を求める院内集会と 支援共同総会が行われました！

ピンクルー
ユニオンの
神田副委員
長から、4割

2月24日12時、参議院議員会館講堂にて「JAL・政府にILO勧告の履行を求める院内集会」と、引き続きJAL不当解雇撤回国民共闘の第6回総会が行われました。院内集会では牛久保弁護士による解決にむけ「意義ある交渉」を求めるILO第三次勧告の内容と意義について報告があり、職場報告としてキャ



院内集会には200名の参加がありました

弱を占める新人、ものい
う労働者の減少により機
内サービスはもとより保
安任務にも重大な影響を
与えている実態が語られ
ました。

参加者からはILOへの
取組みを行って来た国
労本部、全厚生から発言
がなされました。

最後に乗員組合・田二
見委員長から「パイロッ
トの流失で稼働が上がり、
乗務時間の制限は1月、
12月では収まっているが、
月をずらすと制限時間を
オーバーする」パイロッ
ト職場の実態、離陸直後
の緊張する時間帯にCA
から16時間後の着陸案内
について問合せを受けた
経験など、客室乗務員の
経験者が少なくなってい
ることの弊害等の報告が
なされ、最後に争議団全
員と共に「解雇された人
全員を職場に戻す！」と

現代企業の三悪人...アメーバ経営方式で世界の空が危険！稲盛和夫さんの経営「哲学」とは

稲村守：JAL闘争の勝利をめざす京都共闘会議事務局次長

JAL「再生」の「経営の神様」である京セラの稲盛和夫名誉会長は、演歌が大好きで、クラシック嫌い（伊部四郎著『京セラ血塗られたバランスシート』山手書房、85年・稲盛の十八番は愛馬行進曲・労働者は馬なのだ！）、光りもの好きだ（京セラは人口宝石クレサンペールを販売している）。

<現代企業の三悪人> 評論家の鎌田慧氏によれば「児玉誉士夫、小佐野賢治、笹川良一の戦後三大怪物」の時代が終わり、「現代の経営者の三大悪人といえば、来島どっくの坪内寿夫、リクルートの江副浩正、そして京セラの稲盛和夫」とのこと。そこでひとり生き残り、「ノーベル賞もどきの『京都賞』や第二電電の冠のもとで虚勢を張り、勲章欲しさにカネをばらまいている笹川オジサンと好一対をなしている。」のが稲盛和夫氏だった。

<165人首切りの真の目的とは> 裸の王様という話がある。神奈川での京セラ争議支援のため京都商工会議所ホールで京都総評支援共闘が全面バックアップして87年秋にシンポジウムを開催した際、槌田劭京都精華大学教員に講演をお願いした。氏はわざわざ京セラ本社まで足を運んで、社内報など読破され（京セラ本社では槌田氏について資料を出さなかったのだが）、講演されたが、「稲盛哲学を批判せよということだが、どう読んでも哲学がないのである」「哲学になっていない」と述べられた。その成果が『京セラ その光と影 稲盛イズムの秘密』（土方美雄著、れんが書房、88年）の発行となった。

稲盛JAL会長が2010年大みそかにベテランパイロット・CA165人を会社再建を口実に解雇した真の意図は、巷間言われている“闘う労組つぶし”だけではない。それは、裸の王様に正しいことをいう子どもを追い出したかったのである。それがなければJAL再生を果たした経営の神様・稲盛経営「哲学」は完結しなかったのである。165人は有能な労組活動家であるばかりでなく、多くはまやかしのカルト教団にはそまらない科学的な世界観を持った人々だ。「稲盛フィロソフィなんてお笑い種の、労働者の労働しぼりとりまやかしだ」「あなたは裸の王様だ」と言い切る人間を、JAL社内に置いておくことは決してできなかったのである。論より証拠に、165人を年末で追い出すや否や「JALフィロソフィー」を明けて2011年1月に制定し、手帳にして翌月に発行した。

その「成果」が、約半年後に発生したアメーバ経営方式（部署ごとの採算競争）による、国際線ジェット燃料費20万円節約のための、台風雲つきり事件であった。（つづく）

国会議員は社民党一人、
共産党四人の参加があり、

代表者が挨拶しました。
秘書の参加は自民党、民
主党、諸派も含め15人。

200名の参加で成功さ
せることができました。

JAL 不当解雇撤回闘争この5年

JAL 国民支援共闘 共同代表 金澤 壽

「JAL 国民支援共闘会議」が2010年12月27日に結成され5年以上が経過しました。「共闘会議」はどんな役割を課せられていたのかといえば、いうまでもなく日本航空の労働者165名の解雇を撤回させ職場復帰させること。そして同時に整理解雇4要件という雇用保障の法理を守らせること。そしてもう一つの側面、組合攻撃との闘いでした。これは全ての労働者、労働運動の共通の課題であることはいうまでもないことです。

目標及び課題が達成されたでしょうか 次の5年を経過させないために少しでも立ち止まって整理してみたいと思います。

時の最高経営責任者であった稲盛さんが「経営上必要のない解雇だった」と述べたことは周知のとおりですが、だが「経営上必要のない解雇」が何故行われたのか。

まず司法の判断です。これは現在議論が進められている解雇の金銭解決制度と直結していく課題でもあり、振り返ってみます。日航の経営をわずか1年で目標を超える営業利益を挙げるまでに回復させた稲盛和夫さんの経営哲学を裁判所は高く評価しました。それはそのはずで、更正管財人は裁判所が任命しているわけだし、判決前には、検察官僚出身の元最高裁判所判事の甲斐中辰夫さんを日航役員に就任させています。

この争議の当初から「会社更生法下における整理解雇については、裁判所の監視下に置かれているので、整理解雇4要件は適用されるべきではない、適用するとしても大幅に緩和してすべき」という意見が主張されてきました。裁判は会社あるいは政府の筋書き通りに進められたのだと思っています。

「共闘会議」および労働組合の大きな役割のひとつが、労働者が長年にわたる闘いの中で獲得してきたこの法理を守らせることができるのかという闘いであり、「この法理を守らせること」は解雇撤回と直結した課題でした。しかし司法の判断は会社側あるいは政府を励ます結果となりました。私自身この解雇自由攻撃に対してどう立ち向かっていくのか、次の闘いに向けて「解雇自由を許さない共闘会議」としての総括が必要だと考えています。

もう一つの側面、「組合つぶし」との闘いです。JAL 闘争は、組合攻撃との闘いという側面もあるという事です。私が述べることはありませんが、結論は着実に組織を拡大強化することだと思います。この間管財人代理の発言が不当労働行為であるという判断が地裁、高裁で示されました。これは日航再建途上での事件です。「すみませんでした」では済まされません。団結権侵害との闘いなくして雇用保障はありません。この事件があったその時点に戻った協議・交渉が再開されるべきです。

ILO勧告をどう活用するか 国鉄労働者1047名の解雇事件でもそうであったように、実態として強制力を持ちません。どのように具体的な効果を持たせるのかを検討しなければなりません。でなければ単に被解雇者を慰めるだけになってしまいます。

2月19日のけんり総行動の国土交通省要請で、「『意義ある協議』について政府・国土交通省はJALをどの様に指導してきたか、あるいはしていくつもりか？」という問いに、あろうことか「『意義のない協議』というなら労働委員会を検討したらどうか。」と、国交省担当者は述べました。これは「ILO勧告には応じない」という態度を表明したに等しいのではないかと疑ってしまいます。

勝利への展望 そうはいつでも「これをやっていけば必ず勝利する」ということではなく、当事者、当該労組、支援者との議論を積み重ねていく上での視点ということです。

JALの公共交通としての社会的責任を、雇用、団結、安全を三位一体で追求していくという観点です。そしてこの闘いはすべての労働者にとっての問題であるということを訴えながら社会的な広がりを作っていかなければなりません。「国民共闘」と言うほどその戦線は広がっているのかなど戦線の整備も考えなければなりません。

いま安倍政権は「1億総活躍社会」を実現すると公言しています。時を異にしますが、「あなたには貢献できる場所がない」として整理解雇された日航労働者は、「そりゃないよ」と言いたいのではないでしょうか。

各地のJAL闘争を支える会

JAL闘争を支える北海道の会が結成!

1月8日、札幌市の北海道労働センターで「不当解雇とたたかう日本航空労働者を支える北海道の会」(JAL闘争を支える北海道の会)の結成総会が、元日本医労連田中委員長ら4名およびかきで、労働組合や民主団体、弁護士など25名の参加で開かれました。争議団からはパイロットの山口団長と客室乗務員の石賀事務局長が参加しました。



のたたかひの意義や闘争局面をホームページやフェイスブック、支える会通信を活用して広く、労働者・道民に知ってもらい、原告団の財政を支え闘いを広げるためにJAL闘争を支える会の会員拡大、物販に協力するなどの申し合わせ事項を確認しました。

参加者からは「法廷闘争は目的ではなく手段である。世論で攻めていくこれからの勝負である」「寒い中争議団の座り込みの写真を見て、応援しなければという気持ちが強くなった」「争議は何よりも財政面の支援が大切である。JAL争議は労働者の尊厳を守る闘いだ」等の発言が出されました。

総会に先立ち、争議団は支援者と共に労組など18か所を訪問。現状報告を行い、不当労働行為裁

新潟で支援共闘会議と支える会の合同集会在開催されました!

2月7日、14時から新潟市総合福祉会館で「不当解雇とたたかう日本航空労働者を支える新潟集会」が行なわれました。

新潟では2012年9月に「日本航空の不当解雇撤回をめざす新潟支援共闘会議」が、2013年1月には「JAL争議を支える新潟の会」が発足しJAL争議の支援を続けてきましたが、今回、両組織が一緒に集会を開催することができました。

集会は舟江瑞祥太鼓の演奏で始まり、第一部では客乗鈴木圭子副団長から「闘いの経過とこれから」の報告が行なわれました。

判における日本航空の上告棄却を求める最高裁判の団体署名の協力をよびかけました。

その後、夕刻の氷点下の札幌駅前前で地元の争議団が合同で行っている定

2016年こそ勝利！大望年会開かれる！

15年12月25日、港区役所食堂にてJAL争議団を応援する大望年会が、港区職労とJAL闘争を支える会共催で行われました。

当日は支援者と争議団が200名近く集まり、大いに盛り上がりました。



らの闘い」について報告が行われました。

第2部は争議団の合唱団「フェニックス」がうたごえを披露、また地元合唱団の「樹」も友情出演し共に「あの空に帰ろう」を合唱しました。

集会の締めくくりは百名の円陣で「がんばろう」を歌い団結・連帯ムード

例宣伝に参加し支援を訴えました。

* 皆さまもお仲間と共に是非JAL闘争を支える会を作って下さいませんか？詳細は事務局までお問い合わせください。

は最高潮に達しました。集会翌日、争議団3名と共闘会議3名、支える会2名で、新潟労働局と航空局新潟空港事務所への要請行動を行ないました。

